

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190600116		
法人名	社会福祉法人 ナイスランド北方		
事業所名	グループホームきたがた湖山亭		
所在地	佐賀県武雄市北方町大字志久4531-18		
自己評価作成日	平成28年2月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年3月9日	外部評価確定日	平成28年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>常に入居者様の尊厳を念頭に、その方の立場に立った支援を心がけています。またスタッフは認知症についての知識を深めるため、認知症実践者リーダー研修者や実践者研修修了者を中心に勉強会を実施しています。その他にも様々な研修会や勉強会に積極的に参加し、学んだことを共有できるよう報告の場を設けたり、回覧を行う等、認知症ケアの向上に努めています。</p> <p>鬼の鼻山の麓にあり、森や越冬をする鴨が泳ぐ広い湖に囲まれた四季を感じやすい所です。自然豊かな環境の中で、散歩に出掛けたり、花壇の花や畑の野菜の手入れ、収穫等、自然と触れ合う機会を大切にしています。</p> <p>買い物や墓参り、外食、馴染みの理美容室へ行く事等、出来るだけ入居前と同じような日常生活が送れるよう、様々な要望に沿いながらの外出支援には力を入れています。</p> <p>季節を感じて楽しく過ごして頂けるよう、季節ごとの花見見学や運動会、ご近所の方々をお誘いしての月見会等様々な行事を行っています。運動会や月見会、敬老会は既存のグループホームきたがたと合同で行い、入居者様との交流も図っています。行事については湖山亭便りを毎月家族様に送付し、事前のお知らせと日々の様子や運営状況等の報告も行っています。</p> <p>食事量やリハビリが困難な場合は、医師や看護師だけではなく、管理栄養士や理学療法士等の他職種間との連携も密にし、相談助言を受けることで、不安なくケアを行う事が出来ています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>地域の強い要望で2年前に新たに開設されたグループホームは、経営母体である特別養護老人ホームやデイサービス、別のグループホームなど様々な介護事業所が併設されている。JR北方駅から山手に上り、自然豊かな環境で、湖の様なため池の周囲は、四季折々の花木に囲まれ、ホームの大きな窓からは四季の移ろいを居ながら観ることができ、利用者の目を楽しませている。地域住民との交流も大切にしており、地域の催しには積極的に参加し、事業所の催しには地域住民の参加を呼び掛けている。ホームのウッドデッキで催されるお月見会を利用して、近隣住民にホーム内を見学していただくなど、事業所を地域に知っていただく取り組みもなされている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしくほがらかに」の理念を、管理者、職員で共有し、ケアを提供する際の道標と捉え、入居者の権利や尊厳が損なわれないよう、職員で話し合ったケア目標を基に実践を日々チームで行っている。	隣接する同法人施設と理念を共有し、それを基に独自のケア目標を作成している。毎朝の唱和はもとより、リビング、玄関など目のつく場所に掲示され、職員は利用者が穏やかに笑顔で過ごしていただけるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームきたがたがと合同で、お月見会を開催、また法人の納涼祭にも加わり、地域の方々へ参加を呼び掛けている。入居者が慣れ親しんだ地域へドライブや買い物、整髪に出掛けたり、地元の敬老会や見守り隊に参加する等、馴染みの方たちとの交流の場も設けている。	自治会に加入し、地域の清掃活動にも積極的に参加している。隣接事業所と合同で行われる催しものには家族や地域の方の参加も多い。運営推進会議を通し、小学生の見守り隊に参加する等地域の一員として交流できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご近所付き合いを大切に、色々な相談事を受ける事もあっている。介護についての相談事を受けた時には、実践を通じて培った認知症の人の理解や支援方法を活かし行っている。また、運営推進会議にて、認知症についての啓発を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況や行事関係、職員が参加した研修や2ヶ月間の全体的な動き等を報告し、それに対する意見や助言、市の新たな取り組みや地元の情報等活発な話し合いがあっている。そこでの意見や助言はサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は利用者の家族や区長、行政などの参加を得て、定期的に関行され、日常の取り組み状況やホームの実情を理解してもらい、協力を得ている。議事録もきちんと記載されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公的制度を必要とする入居者の状況は、常に市担当者に連絡を行い、連携を取りながら生活に支障が出ないようにしている。また、分からない事や問題が出た時は、市役所などへ相談したり、出向いて協力関係を築いている。	運営推進会議の参加もあり協力関係はできている。利用者に関する相談に出向いたり、空き情報を伝えることで入居希望者を紹介してもらったこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者や職員は、法人の勉強会や、研修で身体拘束によるリスクについて理解している。また当ホームでは、定期的に勉強会を行っている。やむを得ず、手すりコールやセンサーマットを使用する際も、家族に了承と理解を得、注意点の周知と定期的なカンファレンスを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。昨年7月には日中の解錠までに至ったが、入居者の入れ替わりによって、事故のリスクが高くなったので現在は施錠している。しかし解錠に向けての定期的なカンファレンスを行っている。	身体拘束廃止に関しては施設内でも研修を行い拘束をしないケアの実践に取り組んでいるが、外出傾向がある利用者の安全を考慮し、玄関は日中も施錠されている。職員は日々の業務の中で模索しながら解錠を目指している。	外出傾向がある利用者に対しては、日々の心理状態を確認しながら、毎日のケアの見直しも必要になると思われる。管理者も身体拘束によるリスクを充分理解されているため、日中の数時間からでも解錠できるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、法人の勉強会や外部研修において、入居者の人権を常に意識し、高齢者虐待防止法について学び話し合う機会を設けている。必要な時は、家族と話し合い、理解を求めたり、職員は虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、「権利擁護」について法人の勉強会や外部研修等で学んでおり、学んだことは皆で共有し、必要性がある時は本人と関係者で十分話し合い、成年後見人制度や安心サポートの利用を検討出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は文書に沿って説明を行い不安や疑問点に対しても、十分な説明に努め理解と納得を得たうえでやっている。解約は本人や家族が困らないよう今後のことを十分に話し合い、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは、日々の会話から意見、要望を聴く機会が多く、出来る限り実現出来るよう努めている。家族には面会や担当者会議時、必要時は電話等で、意見、要望を聴いたり、毎年アンケート実施を定めている。また第三者窓口について説明しホーム内に提示、苦情受付箱を設置している。	日頃のケアの中で利用者の意見や要望を聞き、生活しやすい環境づくりを目指している。また家族にも面会時など意見を聞く機会を作っているが、年1回アンケートを行い、そこで出された意見は運営に反映させている。また家族にも結果を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議や必要時に、職員から意見や提案があっており、代表者や管理者はその内容を検討し、可能な限り意見や提案を運営に反映させるようにしている。	管理者も日頃からケア職員として勤務しており職員と連携し意見や提案を互いに言える関係である。月1回の職員会議では日頃のケアを通して職員一人ひとりの意見や提案を聞くようにし、出された意見は法人にも伝えられている。また代表者は年2回職員の個別面談を行い、勤務しやすい環境に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価や作文を職員全員に提出させており、個人面談も行っている。また主任や管理者が評価し賞与や定期昇給に反映させ、各自が向上心を持って働けるよう努めている。代表者は個々の作文を通じて就業環境を把握し改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症リーダー研修で学んだ職員と、実践者研修に参加したスタッフを中心に、職員一人一人の能力や力量を把握し、レベルに合わせた勉強会を開催、ケアの実践に繋げている。また施設内外の勉強会や研修に積極的に参加する機会を設けOJTとOFF-JTの推進を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員を外部研修会に積極的に参加させ、情報交換を行ったり、ホームの行事には、声をかけ参加をしてもらっている。またチラシ配布を行い相互訪問に繋げている。交流を深めることでサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至る前に、必ず本人に会い、さりげない会話を通じて相互理解を深め信頼関係を構築し、情報収集に努めている。情報は職員全員に伝え共有し、関係作りがスムーズに出来、本人が安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は、ホーム見学の際や入居申し込みの際に、困りごと、不安なこと、要望等に寄り添い、傾聴し、安心出来る情報提供に努め、家族の抱える想いを十分に受け止め、円滑なサービスの利用が出来るよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の抱えておられる問題について、家族や本人、担当介護支援専門員から十分に聞き取りを行い、必要に応じて、在宅サービスや老人福祉施設等の提供または紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の得意分野において、能力を発揮してもらい、長年培ってきた生活の知恵や手順等を、助言してもらう事により、互いに助け合い生きがいを持って生活できるよう配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は、本人の排泄用品や嗜好品を定期的に届けてもらったり、病院受診後に外食をされる等、協力を仰ぎながら、家族との絆を大切に過ごせるよう、共に話し合い支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により、自宅へ必要な物を取りに行ったり、ドライブや散髪、地域の敬老会や夏祭りに参加し馴染みの方々と会う機会を作るよう努めている。また選挙に行かれる等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	職員は、利用者の馴染みの人や場所等を把握し、関係の継続を支援している。自宅への同行や馴染みの理髪店の利用、地域の行事へ参加、それに加え、利用者の知人等の訪問時には湯茶を供してもてなすなど支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルやソファで楽しげに会話されている事が多いが、聞こえにくさが会話に繋がらない時や、輪の中に入れていない方には、職員が間に入ることで会話がスムーズいき孤立が無いように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、面会や様子伺いを行い、これまでの関係性を大切にしている。また、必要に応じて本人や家族への、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者との関わりを大切に、その中から本人の希望や意向を引き出し、表情や会話の中の呟き、行動から発せられるサインも見逃さないよう努めている。家族の面会の際は、希望や意向を尋ね、その内容に沿ったサービスを心がけ、困難な場合は、本人本位になるよう家族に協力を依頼している。	入居時に得た情報を基に、日々の関わりの中で声をかけ思いや意向の把握に努めている。ハンドケアを好まれる利用者などには、その間にゆっくりとかかわる時間を持ち、会話や表情、行動等から希望や意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に本人や家族にお会いし、これまでの生活歴、馴染みの暮らし方等尋ね、フェイスシートに記入全職員が把握できるようにしている。入居後も本人や家族との関わりの中で、常に情報収集に努め、本人の想いを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケースに1日の過ごし方、心身の状態や有する能力等を記入、職員が出勤時に必ず目を通すことで、現状把握に努めている。また状態の変化があった時等は、申し送りノートや口頭でも報告し、情報の共有や迅速な対応が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の生活に対する意向や要望を大切に、介護職員、主治医の意見内容を踏まえ、担当者会議で検討して出た、様々な意見やアイデアを勘案、介護計画を作成している。状態変化時は、随時個別カンファレンスを行い、ケアの統一を図ることで、現状に即したサービスになるよう努めている。	利用者や家族の希望や意向を汲み取った介護計画を作成している。定期的にモニタリングを行い評価と見直しを行っている。状態に変化が生じた時には速やかに見直し、現状に応じた介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートに、日々の様子や変化、工夫した事、またケアプランに沿って実践した結果や気づきを記入、職員は出勤時に必ず目を通し、共有に努めている。また情報を踏まえて、常に意見や提案を出し合い、実践やケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、本人を取り巻く環境で生まれる、その時々ニーズに応じ、十分に話し合う機会を設け対応す事で、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの積極的な受け入れをしている。お月見会に地域住民の方をお誘いし、歌等演奏を披露し合うことで、お互いの力を発揮して楽しめるような環境作りを心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を、大切に安心して医療が受けられるよう、かかりつけ医を継続してもらっている。基本的に受診は、家族対応だが、受診が困難な場合は、往診を依頼したり、ホームより受診同行を行っている。医療機関との情報交換を行い適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の希望される医療機関へ受診されている。定期受診は家族の付き添いを基本としているが、無理な場合は職員が付き添う。協力病院の往診を受けることもでき、適切な受診ができるように支援している。緊急時の夜間の受診体制も確保している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の健康状態の把握に努め、訪問看護師と契約しており24時間連絡可能な体制を整えている。状態が変化した場合は、看護師に報告相談し、医師との連携を取りながら、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、日頃の生活状態等の情報提供を行っている。また早期退院に向けて、病院関係者との情報交換や相談に努め、定期的に容体訪問も行っている。入居者が、安心して治療を受けられるように、日頃から病院関係者との関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における対応の指針や看取りにかかわる指針を説明している。重症となられた場合は、本人と家族の希望をできるかぎり尊重し、当ホームですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療との連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。看取りになった場合は看取りの体制が整った併設施設に繋ぐ事もある。	重度化や終末期の支援に関する指針を作成し、契約時に説明を行い、同意を得ている。併設特養施設の協力体制もあり、まだ看取りの経験はないが体制は整っている。状況の変化に合わせ、主治医と連携をとり、家族と話し合いを重ねながら安心した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人にて、消防署からの指導による救急蘇生法やAEDの使用方法、急変時の対応について定期的に勉強会が開催されており、勉強会に参加することで、実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼間と夜間の想定で、避難訓練を行っており、行政、地元区長、近隣の住民の方、地元消防団・婦人会に協力を仰ぎ、地域と一体になった避難訓練を実施している。また、法人の安全管理委員会に、職員が所属しており、防災知識向上への取り組みがなされている。	防災計画の元、隣接する同法人施設との合同で、消防署、消防団、地域住民の立会いで夜間を想定した消防避難訓練が年2回行われている。夜間の火災想定訓練は、実際に夜間に行い、一層現実味のある訓練になっている。職員は消火器の使い方や緊急通報の手順も熟知している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に、接する際は、目上の方への敬意を持ち、その方の人生背景や性格を考慮し、入居者と職員の距離感に気を付けながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。	職員は利用者の人格を尊重した言葉使いや口調に注意し、誇りやプライバシーを損ねることがないように、意識しながら日々の支援に取り組むよう努めている。個人情報や秘密保持は運営規程どおりに実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの人生背景や性格を考慮し、自然に希望や想いの表出ができるよう、雰囲気づくりや職員の振る舞い、言葉掛けにも工夫している。また、コミュニケーションを通して、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務を優先するのではなく、一人ひとりの生活スタイルを大事にした支援を心掛けている。また、散歩に出られたり、絵を描くなど、自分のペースで過ごされることを大切に、出来るだけ希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、行きつけの理容室に行かれている。愛用品のヘアートニックや化粧品等がなくなった場合は、買い物支援で購入される。また、起床後の洗顔をされる際、毎日ブラシを洗面台に置いておくと、鏡を見ながら整容を行われている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の生活歴を大切に食後にコーヒーを提供する方や、誕生日には希望により外食や好きなメニュー、行事には特別メニューを用意し、職員と共に食卓を囲む機会を設けている。また、台所仕事がお好きな方には、配下膳や食器拭きを職員と一緒に楽しんで出来るよう支援している。	献立や食材は外部から取り寄せているが、利用者の希望や嗜好等も考慮しながら調理している。利用者の嚥下状態を考慮しムース食を提供したり、毎週水曜日はパンを提供している。また平日に弁当をつくりウッドデッキで食事を楽しむこともある。職員は、利用者と同じ食事を会話しながら一緒に食べ、楽しい雰囲気を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門業者の管理栄養士が作成した献立に基づき、一人ひとりの状態や力に合わせた食事量や食事形態を工夫し提供している。10時には好みの飲み物を提供する等変化をつけ、水分量の確保に努めている。また、食事や水分量は、毎日記録に残し、健康状態の目安になっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯や自歯のブラッシングを促し、磨き残しについては、職員が一部介助することや必要な時は歯科往診や受診で指導を受け、清潔保持ができています。夜間帯は、職員サイドで預かり義歯洗浄剤に浸け管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、排泄用品・用具の選定、さりげない言葉かけやパット確認を行う失敗の減少に努め、安心して自立出来るよう支援を行っている。また、排泄動作に不安がられる方には、見守りや動作の手順をゆっくり説明し、一部介助を行うことで不安の軽減へ繋げている。	個別の排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援に心がけている。昼夜共に声かけや誘導でトイレでの排泄支援を行い布パンツで過ごしていただいている方も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量に気を付け、献立には食物繊維やヨーグルト等の食品を取り入れることで、便秘予防に努めている。また、個々に合わせた支援を心がけ、散歩や軽運動も促している。慢性の便秘の方には、医師や訪問看護師と連携を図りながら、服薬のコントロール等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	プライバシーや羞恥心に配慮し、場合によっては同性で対応しを行い、ゆっくりと入浴出来るよう個浴になっている。湯温や手順等個々の希望に合わせて、身体リスクのある方には、安全面を考慮している。またお断りされる時には、無理強いせずコミュニケーションや別日に対応している。	基本的に入浴日は定められている。拒む方には無理強いせず、日程を変更したり、本人の意向に沿った支援を行っている。ゆっくり入浴できるよう個々に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や希望に応じて、居室や畳の間等で寛いだり、午睡をされている。就寝前は、居室でテレビを視聴したり、共同スペースで気の合う方と談笑されている。また、室温・湿度調整も随時行い、愛用品の寝具で眠られている。不眠時は、不安軽減の援助を行うことで安心されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬状況や効能・副作用等を記載し、いつでも確認ができるようになっている。一人ひとりが服用されている薬について理解しており、症状の変化にも十分に注意している。薬は個別の袋に入れ、誤薬防止のため、4回の確認を行い、服薬の際は、名前、日付を確認の上、服用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵や歌等の楽しみ、洗濯物畳みや拭き掃除、または食器洗浄等の家事全般、一人ひとりの生活歴や力を生かし、生きがいや喜びのある毎日を過ごせるよう支援している。また、近所の散歩や買い物、ドライブ、墓参り等へ出掛ける支援を行っている。毎朝仏様のお茶を入れ替えるという支援を行うことで、欠かさずお参りをされ1日を迎えられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等は個々の希望に沿って行い、移動パン屋や近所のスーパーにて嗜好品を購入してもらう等出来る限りの希望に添えるよう努めている。また、本人の希望で家族にも協力して頂き、郵便局や銀行にも出掛けられるよう支援している。	時期に合わせて事業所で計画し、花見やドライブに出かけている。家族の協力で外出されたり、外食されることもあるが、日用品の買い物など利用者の要望に合わせてスーパーなどに買い物に出かける等個々に応じた外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上、自己管理出来る方は、お金を所持されており、百貨店などに行き衣類を購入されたり、苑外活動時やパンの移動販売等で、好きな食べ物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族に電話をかけたたりかけられたり等で、話して頂いている。毎月のホーム便りに色を塗ってもらったり、一言メッセージを書いてもらい家族に送っている。また定期的に電話を頂くご家族には、日々の様子を詳しくお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各テーブルや壁には季節の花や作品を展示している。廊下の隅には観葉植物を置くなど、季節感や生活感を大事にした設えを心がけている。また、湿度・温度調節も細めに行い、人的環境にも気を遣い、居心地よく過ごせるよう支援している。	リビングは日当たりもよく明るい。大きな窓からは、湖が眼下に広がり周囲の四季の移ろいが居ながらにして感じられ、ウッドデッキに出れば自然の風を受け、落ち着ける環境である。玄関には季節の花が飾られ、利用者の絵や書が飾られている。畳の間には利用者が自宅で育てていた花が飾られ、生活に潤いを与えている。また加湿器や空気清浄機が設置され快適に過ごせる環境づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキのベンチや玄関の椅子に座って過ごす方、気の合う仲間同士でテーブルを囲みながら、昔話をされる方々、ソファに座りTVを観る方等、各自ゆっくりとした時間を過ごしておられる。また、畳の間ではソファに横になり、一人で過ごす時間も大切に出来るよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、テレビやソファ等愛用の品物や位牌を持ってきて頂き、馴染みの品物を置くことで不安なく安心して過ごしてもらような工夫をしている。自室でテレビを観たり、窓からの景色を描いたり、一人で本を読まれたりと、居午後地の良い場所となっている。	居室は馴染んだ品物や、使い慣れた物の持ち込みの制限はなく、居心地よく生活できるよう支援している。伴侶を亡くされた利用者の部屋には、位牌や遺影が祭られ、思い出の品々も置かれている。室内は掃除も行き届き清潔な環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存能力を把握し、トイレや居室に迷われる方のためには、道標や表示を掲示し、不安や混乱の軽減に努めている。また、廊下やトイレ浴室等には、手すりを設置し安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない